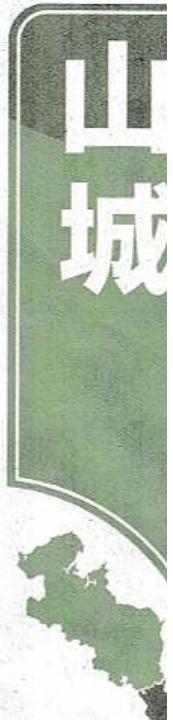


中世の山城・鹿背山城跡

(木津川市鹿背山)



標高135mの鹿背山城・主郭跡。木津川の流れや山城地域のまちが一望できる(木津川市鹿背山)

山あいを真っすぐ西へ流れてきた木津川が山城盆地に入るとなじ向きに大きくカーブし、流れが緩やかになる。一帯は古代には泉津、後に木津と呼ばれるようになつた。津は、港のこと。奈良に近い物流拠点だった。

旧木津小鹿背山分校から、案内板に従つて山道を歩く。10分弱でたどり着く標高135mの頂上に千平方ばかり、人工的に平らになつた部分がある。中世の山城「鹿背山城」の主郭跡だ。眼下には木津の街。府南部のほぼ全域を見渡せる。

鹿背山城は興福寺が築き、戦国武将の松永久秀が再整備したとされる。城跡の研究は1978年に発足した市民団体「木津の文化財と緑を守る会」会長の

岩井照芳さん(69)=木津川市木津町=ら在野の研究者や郷土史家がリードしてきた。三つの主郭、縱方向に掘つた堅堀、通り道を狭める土壘、井戸跡などが山中に残る。「防御だけなら、より高く急傾斜な山が東側にある。大和の物流を握る泉津を押さえる目的があつたと考えられる」。岩井さんは、大和(奈良)に相楽地域も含む地域での戦略的な役割が強く感じられるという。守る会は、城跡から、鐘の音やのろしがどこまで伝わるかといつたユニークな実験にも取り組む。

本格的な発掘は行われていなかが、木津川市教委の近年の調査で深いV字型の溝や、時代をさかのぼる別の遺跡の存在も明らかになつた。発見を待つ謎が、まだまだ眠つていそうな地だ。

(石崎立矢)
山城地域では豊かな歴史と文化が、人々の生活の中で、また産業の発展とともに受け継がれています。史跡、文化財はじめ身近にある地域の「遺産」を訪ね、その魅力を再発見します。(隔週水曜に掲載予定)

大和の物流拠点ににらみ

やましろ遺産を行く

まじめな質
高価買取!
京阪くすは駅前
(有)橋本質店
072(856)1234

南部支社
〒613-0033
久御山町林高
代表 0774(45)
FAX 0774(45)
nanbu@mb
oto-np.co.jp
吉田初・学研